

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

ゴールデン・リセッション

(デフレは止まるか)

9日の日曜日、台風が迫る不安定な空を横目にしながら「サンデー・プロジェクト」というTV番組をじっくりと見た。ご覧になった方も多いと思うが、番組の中盤で面白いバトルが見られた。参院議員で政治学者の榊添氏とエコノミスト森永氏、そして経済学者金子氏が、司会者田原氏を挟んで喧喧諤諤の議論を展開したのだ。議論のテーマは、経済成長がマイナスに陥りデフレが深刻化する現在の危機的状況をどうやったら切りぬけられるかというものだったが、議論の中身もさる事ながら、熱い議論の中で変化するそれぞれの表情の変化が興味深かった。彼らも、日頃の主張が否定されるか賛同されるかのぎりぎりの所で闘っていることが見て取れた。そんな迫力がTVのこちら側にも伝わってきたのだ。

迫力は伝わってきたが、肝心の議論は噛み合っていなかった。唯一3人が合意したのは「早急にデフレを解消する必要がある」ということだったが、その処方箋はまるで違っていた。日銀の更なる量的金融緩和によって可能だとする榊添・森永組に対して、そんなことは不可能で不良債権処理が先だとする金子氏という構図だったが、白熱した割にその内容は空しく聞こえた。「本当にそう思っているのか」「本当に出来るのか」そう問いかけたくなった。

政策(財政政策、金融政策)で出来るものはもう限られている。どちらも限界までやっている。その結果が、先進国では突出して膨らんだ666兆円という政府債務であり、歴史上類例のない超低金利ではないか。私達は、財政や金融に未だ何かを期待しなければならないのか。

第一、肝心のデフレは政府や日銀の力で止められる類の代物だろうか。土地や株価が下落し、様々な商品の値段が下がるのは、別に政治が悪いからでなく日銀のやり方がまずいからでもない。これは純粋に経済現象である。政府や日銀は足を引っ張ったり背中を押したりすることは出来ても、それ以上のことは出来ない。そうした存在に声を荒げて当り散らしても何の解決にはならない。私にはそう思える。

我が国のデフレのスタートは東欧ソ連の崩壊

とそれに伴う東西冷戦の終結にあった。人口10億人余で運営してきた自由主義経済圏にその3倍の人口がなだれ込んできた。それは同時に、比較するにも馬鹿らしいほどの低賃金、広大でただ同然の土地、そして膨大な胃袋を自由主義経済圏に運んできた。この歴史的な大変動の波が、最も経済的に成功していた国(日本)を最も激しく揺さぶったとしても不思議ではない。

その時日本のあらゆる価格体系は、不幸にも新たに参入してきた30億人の国から見ると飛びぬけて高かった。この突出して高い価格体系は、時間的な速度は別として、いずれ何らかの形で修正されてゆく。

今起こっているデフレ現象は、その意味で国内要因で起こっているのではない。グローバル経済下で進行が止められない経済現象と捉えるべきではないか。とすれば、政策が取りうる対策は限られてくる。

政府がデフレ終結宣言をして、日銀が土地や株を買ってジャブジャブに資金を流せばデフレが止まるとの暴論も出ていたが、それは「通貨改悪策」に過ぎない。悪貨は良貨を駆逐する。通貨を墮落させて経済が再生することなど有り得ない。

私達の国は、他の国、特に近隣諸国と比較してあらゆる物の価格が高くなっている。これは(為替レートを介して比較するものであるが)否定できない現実である。デフレ(あるいはディス・インフレーション)は先進国共通の経済現象であることを認識することからスタートすべきではないか。

ヘッジ・ファンドは世界を見渡して「割高のものを売って割安のものを買う」。我が国の地価も人件費もその他の諸物価も(株価は違う側面を持つ)、世界と比較して割高であれば下落圧力がかかるのは自然の動きだ。現実はそのように単純ではないが、基本的なところは押さえておかないと経営に携わる者は方向を間違えてしまう。

同じ日の新聞に「ゴールデン・リセッション」という言葉が出ていた。ある外国人金融記者が日本の現況を表現したものだそうだが、直訳すれば「輝ける景気後退」となる。「銀座の通りは着飾った老若男女で賑っているし、ホームレスも見かけない」、そんな日本は表面上とても不況には見えない。しかし、経済は表側だけ見ても全容は見えない。ゴールデン・リセッション、日本は今その道を歩んでいるのだろうか。

Weekly Fax Report

《複製・転載等のご連絡下さい》

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/ Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp

2001.9.15(第275号)